
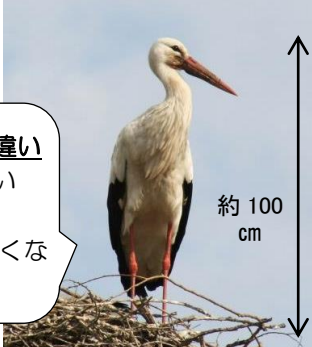









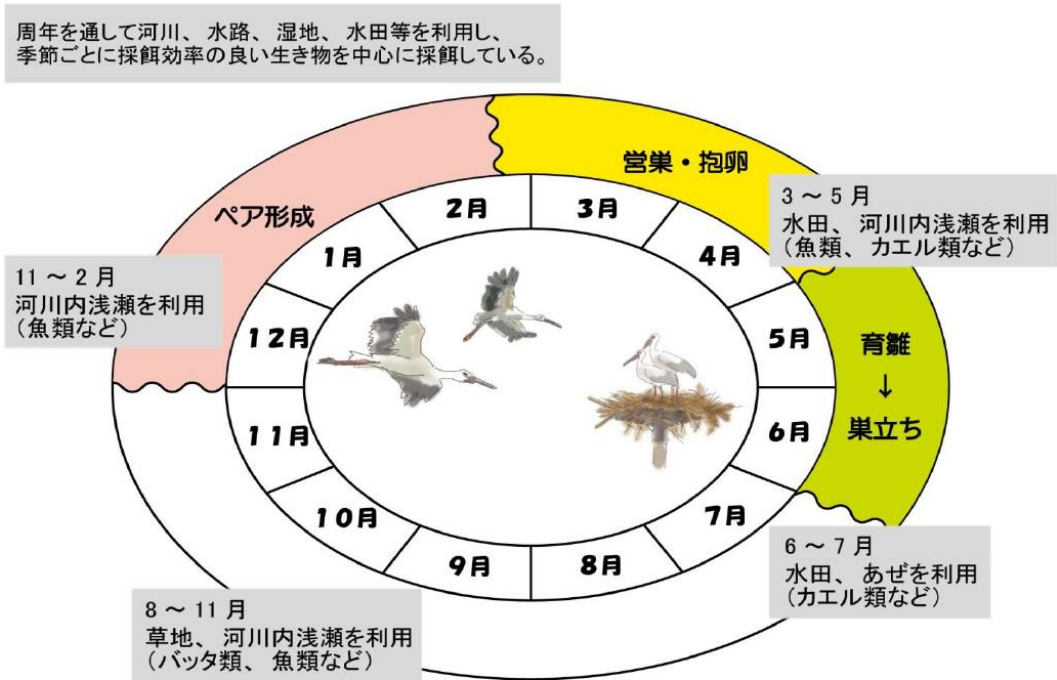


# コウノトリはどんな鳥？

種名	コウノトリ (Oriental Stork, Japanese White Stork, Oriental White Stork)
学名	<i>Ciconia boyciana</i> (Swinhoe, 1873)
分類	コウノトリ目・コウノトリ科・コウノトリ属
保護上の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IUCN レッドリスト 絶滅危惧 I B 類 (EN) (ver.3.1)</li> <li>• 環境省版レッドリスト 絶滅危惧 I A 類 (CR)</li> <li>• 文化財保護法 特別天然記念物 (1956年指定)</li> <li>• 種の保存法 国内希少種 (1993)</li> <li>• CITES (絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約) 附属書 I 掲載種 (絶滅のおそれのある種で取引により影響を受ける種)</li> </ul>
形態	 <p>くちばし：黒 目の周り：赤 目：白目がはっきり見える 足：赤 つばさ：白に一部</p> <p>約 100 ～110 cm</p> <p>翼を広げた時の大きさ (翼開長) は、約 200～220 cm にもなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 体重は 4～5 kg あります。</li> <li>• 足には前 3 本、後ろ 1 本、計 4 本の指があり、木の枝をつかんで止まることができる。指の間に小さな水かきがあり、水田や湿地などの泥の中を歩くのに適しています。</li> </ul> <p>※ツルは木など、高い所にとまることはできません。「松上のツル」は、実は「松上のコウノトリ」です。</p>
ヨーロッパのコウノトリ	<p><b>シュバシコウ (朱嘴鶴 : ヨーロッパコウノトリ)</b></p>  <p>約 100 cm</p> <p>コウノトリには「赤ちゃんを運んでくる」というイメージがありますが、この伝承はヨーロッパコウノトリについてのものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生息地：主にヨーロッパで繁殖、アフリカに渡って冬を越します。</li> <li>• 採餌場所：草地、畑、湿地</li> <li>• 翼開長：150～165 cm 程度</li> <li>• 体重：2.3～4.4 kg 程度</li> </ul> <p><b>コウノトリとの違い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• くちばしが赤い</li> <li>• 一回り小さい</li> <li>• 目の周りは赤くなく黒目がち</li> </ul>

よく間違えられる鳥	<p>関東の水辺でよく見かけるアオサギやダイサギは、コウノトリと間違われやすい鳥です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>約 90 cm</p> <p>アオサギ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>約 90 cm</p> <p>ダイサギ</p> </div> </div> <p>コウノトリより体が一回り小さいサギの仲間です。アオサギは、体は全体に青灰色で頭や羽の一部に黒いすじがあります。ダイサギの羽は白一色です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>コウノトリ(左)は首を伸ばして飛び、アオサギ(右)やダイサギは、首を折りたたむようにして飛びます。</p>
減少の原因	<p>狩猟による乱獲、山林・河川・農地・湿地開発による生息環境や営巣木の減少、水田への農薬や化学肥料投入による餌生物の減少、生物濃縮による繁殖力の低下などが、減少および絶滅の原因と考えられています。中でも、江戸時代までの手厚い保護から一点、明治に狩猟制限がなくなったことによる乱獲が、最も大きな要因と考えられています。</p>
生息環境	<p>コウノトリは昔から人里近くに暮らしてきた鳥です。水田や畦、河川の浅瀬などの湿地で餌を採り、餌場近くの斜面林や社寺に生育するマツなどの大木に巣をつくって子育てをしていました。</p> <p>群馬県前橋市の古墳時代後期（6世紀）の水田遺跡からは、人の足跡とともにサギやコウノトリの足跡が見つかった他、江戸時代の絵図にはコウノトリが描かれているものが多数あります。関東地域でも昔々からコウノトリが人の暮らしのそばで暮らしていたことが伺えます。</p> <p>水田遺跡から人の足跡と共に発見されたコウノトリの足跡→  <small>(出典：「牛池川の自然環境と暮らし」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団資料)</small></p> 
オスとメス	<p>オスの方がメスよりも体が少し大きめですが、個体差もあり、見ただけでは分かりません。嘴の長さ・太さの比率からも性別が分かると言われていますが、やはり見ただけでは分からず、例外もあるようです。性別を確認するためには、血液検査が行われています。</p>
寿命	<p>野生下でどれくらい生きるかはまだ分かっていませんが、飼育下での平均寿命は 35 年位と、長生きをする鳥です。</p>

<p>食べもの</p>	<p>ドジョウ、ナマズ等の魚類、カエル、ヘビ、貝類、昆虫類など、肉食の鳥です。一日当たりの餌の量は、約 500 g は必要です。これは、ドジョウに換算すると 70～80 匹に当たります。沢山の餌となる生きものが必要な大食漢の鳥です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>ドジョウ</span> <span>ナマズ</span> <span>トウキョウダルマガエル</span> <span>イナゴ</span> </div>
<p>性格</p>	<p>神経質で気性が激しいと言われています。特に気性の荒いオスは、気に入らない個体と同じケージに 2 羽で入れられると、相手を突き殺してしまうこともあります。</p>
<p>行動</p>	<p>ペアまたは単独で行動します。若鳥は時に同じ場所に複数羽が集まっていたり、複数羽で長距離を移動したりすることがありますが、これらはあくまで「群がり」であり、群れは作らないと考えられています。</p> <p>※野生での行動についてはまだ情報は少なく、分かっていないことも多いのが現状です。今後、野外で生息するコウノトリが増える事で研究も進むと考えられます。</p>
<p>生活史</p>	<p>餌を採る場所は、河川、湿地、田んぼ、畦、草地などです。巣は、かつては松などの大木のこずえに営巣し、子育てをしました。現在は、主に人工巣塔で営巣、子育てをしています。子育ての時期以外は、朝、ねぐらを出てから夕方ねぐら入りするまで、餌を採る、休憩する、羽づくろいをするというのが一日の主な日課です。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>周年を通して河川、水路、湿地、水田等を利用し、季節ごとに採餌効率の良い生き物を中心に採餌している。</p> </div>  <p>11～2月 河川内浅瀬を利用 (魚類など)</p> <p>3～5月 水田、河川内浅瀬を利用 (魚類、カエル類など)</p> <p>6～7月 水田、あぜを利用 (カエル類など)</p> <p>8～11月 草地、河川内浅瀬を利用 (バッタ類、魚類など)</p> <p>参考文献：春日井（口頭講演）2004、コウノトリ野生復帰推進計画 2003 「9 年間のモニタリングデータに基づく野外コウノトリの食性」田和ほか、野生復帰（2016）4</p>

<p>巣</p>	<p>木の枝や落ち葉、草などを使い、直径2mほどの巣を作ります。</p> <p>卵やヒナが使う巣の真ん中には細かくて柔らかい草を使うことが多いようです。</p> <p>巣づくりは夫婦共同で行い、子育て中も時折補修します。</p> <p>排尿は巣から外に向けて行うため、巣の下は糞尿で白くなります。まだ立つことができないヒナも、ちゃんとお尻を巣の外に向けて排尿します。</p> <div data-bbox="756 434 1337 808" data-label="Image"> </div> <p>コウノトリの巣 (写真: 榑野田自然共生ファーム)</p>
<p>繁殖 と子育て</p>	<p>生まれてから約3年で成熟し、繁殖するようになると言われていますが、個体によっては2才で繁殖した例もあります。</p> <p>コウノトリは一夫一婦制で、ペアリングが非常に難しい鳥ですが、一旦夫婦になると、ずっと同じ相手と繁殖し続けます。</p> <p>基本的に一夫一婦制、夫婦共同で育雛を行います。餌やりだけでなく、暑い日は翼を広げて陰をつくったり、水をかけたりするなど、とても細やかな世話もします。餌は、親が餌場で捕まえた餌を一旦飲みこみ、巣に戻って未消化の餌を吐き戻してヒナに与えます。ヒナが食べきれなかったり、餌が大きすぎて食べられずにいると、親がもう一度食べてしまいます。ヒナは、親が外から巣にもどってくると、餌をねだって鳴きながら親のくちばしをつつきます。親鳥はこれが刺激となって、飲みこんだ餌を吐き戻すようです。</p> <p>繁殖ペアは、巣を中心に半径およそ2kmのなわばりを持ち、なわばりに他のコウノトリが入ってくると、追い払ったり威嚇する行動が見られます。</p>
<p>卵</p>	<p>産卵数: 1~2日おきに1個ずつ合計2~5個産卵します。卵の大きさは、飼育下での平均で長径72.0mm×短径53.4mm、重さ115.2gです。</p> <p>(出典: 兵庫県立コウノトリの郷公園HP) (写真出典: 野田市HP)</p> <div data-bbox="1054 1453 1406 1715" data-label="Image"> </div>
<p>ヒナの 成長</p>	<p>産卵から約1ヶ月後に孵化、その約2ヶ月後に巣立ちます。巣立ち時には、ほぼ親鳥と同じ位の体の大きさになります。短い間に大きく育つため、毎日親鳥と同じくらい沢山の餌を食べます。巣立ち間際にはしきりに羽ばたいて飛ぶ練習も行います。</p> <p>(写真出典: 野田市HP)</p> <div data-bbox="1054 1722 1406 2024" data-label="Image"> </div>

<p>コミュニケーション</p>	<p>コウノトリはヒナの頃は餌をねだる時などに鳴きますが、巣立ち後しばらくすると鳴かなくなります。代わりに、威嚇やコミュニケーションのために、くちばしをカタカタカタと激しく打ち鳴らす『クラッタリング』をします。</p> <p>『クラッタリング』をする時は、背中に付く位頭をそらせ、戻しながらカタカタと鳴らします。</p>
<p>天敵</p>	<p>卵・ヒナの頃は、カラスや猛禽類等に襲われることがあります。</p> <p>成鳥には天敵はいないと言われていたますが、同種間（コウノトリ同士の）闘争が激しく、なわばり争いで大けがをすることもあります。</p>
<p>生息地域</p>	<p>分布域は東アジアに限られ、多くの個体が中国東北部（満州）地域や中国国境近くのロシア、アムール・ウスリー地方で繁殖し、中国南部で越冬します。現在、日本には、野生復帰の取り組みによる放鳥個体や、放鳥個体のペアが繁殖・巣立った幼鳥など 99羽が野外で生息している他、渡りの途中に少数が飛来することがあります。現在、野生での成熟個体数は 1,000 以上 2,500 未満と推測されています（IUCN）。</p> <div data-bbox="528 864 1238 1482" data-label="Figure"> </div> <p>図 コウノトリの繁殖地（■）と越冬地（■）</p> <p><i>(Threatened Birds of the World(Bird Life International 2000)</i></p> <p>(出典：「円山川水系自然再生計画書（案）参考資料」より作成)</p>